



りゅうがん淵

あくる朝、与兵衛さんは大急ぎで龍巖淵にでかけました。そして、大岩の上に立って「おぜんとおわんをかしてください」と、大声でさげびました。

すると、水の中からおぜんやおわんがポカリ、ポカリと浮びあがってくるではありませんか。

りっぱな結婚式は、めでたくおわりました。与兵衛さんは、おぜんとおわんの数をきちんと調べ、ていねいにもとの淵に返しました。

与兵衛さんの話を聞いた村の人達は、集りごとのあるときは龍巖淵の主からかりるようになり、だれからともなく願いをたてる淵「立願淵」とも呼ぶようになりました。

ところが、あるときのことです。となり村の名主さんが、この立願淵からおぜんとおわんをかりました。返すときに、いくら数えても一つたりませんでした。「一つぐらいどうせわからないだろう」と、そのまま返してしまいました。

すると淵の水は急に大きなうずを巻きもういくらお願いしても、なにもかしてくれなくなりました。

交通戦争もうごめん

たのしい夏休みが、もうすぐやってきます。

でも子どもの死亡事故は、毎年夏に多く発生しています。下の表を見てください。

昭和50年の7月と8月には、

46件の交通事故が発生し、2人もなくなっています。

道路を渡るときも自転車に乗るときも、ひとりひとりが注意して夏の死亡事故をなくしましょう。

こどもの交通事故

月べつ発生件数と死者



-----昭和49年
——昭和50年

死者

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
昭和49年						1	2					
昭和50年	1						2	2				1

交通事故ゼロの日
200日に挑戦!!



わたし達の吉原小学校は4月から「交通事故ゼロの日100日」という目標をたてました。

6月27日はその100日目。記念に100個のふうせんを、空高くとぼしました。

こんどは、200日に挑戦。全校生徒が、200日めざしてがんばります。



へんとう肥大

口をあけてのどのおくを見ると、カゼをひいたりしたときに赤くはれるへんとう(腺)があります。

へんとうは、子どものときには大きく、大人になるにしたがってだんだん小さくなります。

へんとう肥大の子どもはあんがい多いものです。

学校の身体検査で、へんとう肥大といわれたことはありませんか。

へんとうの大きさは、子どもによってちがいます。

高い熱がでたり、痛みやはれなど炎症があるのに小さい子どももありますし、反対に炎症がなくても大きな子どもがあります。

ですから、へんとう肥大を病気の名前と考えずに、その年代からみて大きすぎるくらいに思えばいいでしょう。